

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 丸山 奈穂	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>➤ 研究費（科研費）の獲得</p> <p>外国人街の観光地化に関する基礎的研究に対して、平成 12 年度基盤研究（C）を研究代表者として獲得した。この研究では、群馬県大泉町および大阪市生野区を主な例として、外国人街の観光地化が、日本人住民と外国人住民の相互理解や外国人住民のエンパワーメントといった地域問題の解決につながるかを探ることにある。そのため、観光地化のメカニズムおよび多様なステークホルダーの観光に関する関心を明らかにする。</p> <p><u>研究の進行状況</u></p> <p>研究 1 年目にあたる 23 年度は、主に様々なステークホルダーの意見を収集した。大泉町の住民（観光協会職員、ビジネスに関わる人、イベント参加者など）に対してインタビュー調査やアンケート調査を行い、観光地化に関する意見を聞いた。その分析作業は現在進行中である。また、大阪市生野区のコリアンタウンも数回訪れ、現地の視察、商店街の人からの意見の聞き取りを行った。また、夏にはアメリカ合衆国テキサスを訪れ、同じような研究をしている研究者と面談をした。また、今後の分析において、指導や協力を依頼することができた。</p> <p>➤ 論文の執筆、投稿</p> <p>博士論文に基づいて、中国系アメリカ人が中国を観光者として訪れることに関する論文を執筆し投稿した。ルーツ観光は、過去の研究では「移民やその子孫が、母国との精神的なつながりを求めて祖国を訪れるもの」と位置付けられ、旅行者全員が「巡礼のような」経験を求めているように論じられることが多かったが、本論文では、ルーツ観光者の動機や目的の多様性について注目した。その結果、中国を訪れた中国系アメリカ人 2 世は、レジャーとして中国を訪れる人から特別な意味を求める人、もしくは両方を求める人など様々な理由で祖国を訪れる人がいることが明らかになった。</p> <p>また、自分が日本人でありながら中国系アメリカ人の研究をすることによって浮かんできた様々な問題や利点を議論した論文を執筆中である。</p> <p>➤ その他の研究</p> <p>東日本大震災の被災地へボランティア活動のために訪れたことのある大学生を対象にインタビュー調査を行った。その分析は今、進行中である。</p> <p>➤ 教育：ゼミへの留学生の受け入れ</p> <p>演習 I において、ドイツおよびアイルランドからの留学生 3 名を受け入れた。グループ研究の際には、3 名を別々のグループに入れるなどして、学生間の交流ができるように工夫した。また、説明は英語と日本語両方で行い、すべての学生が情報を得られるようにした。</p>	

➤ 来年度への抱負

来年度は、群馬県および大阪での外国人街の観光地化に関する調査をさらに進めていく。具体的には、大泉町では、住民への個別のインタビューに加えて、今年度に行ったアンケートやインタビュー調査をもとに、詳細なアンケート用紙を作成し、町の広い範囲で配布して住民の考えを調査したい。また、大阪では群馬で得た情報をもとにしながら、アンケートおよび面接を実施する。

また、ボランティア観光に関する調査は、今後は、東北地方へのボランティアだけではなく、ほかのボランティア観光（海外も含む）に参加した人への面接も行いたい。

教育面では、今年度は、留学生を受け入れた中で、やはり学生間での言葉の壁が大きく交流も難しい面があったので、来年度もし受け入れることになれば、英語が得意な学生を連絡係になってもらう、重要な単語の英語と日本語のリストを作成する、などして、円滑な交流ができるように工夫する。

2 その他の事項

➤ 教育：学生の調査への参加

群馬県内で調査を行う際には、可能な限り学生をアルバイトとして雇用し、調査の仕方などを実際に参加することで学べるようにした。